放射性廃棄物処分に係わる生活圏被ばく評価に用いられるパラメータ調査専門研究会
第 4 回会合
打合せメモ

1.　日　時：2020 年 7 月 16 日(木)　13：00～14：25
2.　場　所：WebEx にて開催
3.　出席者：（順不同、敬称略）

委員:

高橋　知之　(京都大学、主査)
深谷　友紀子　(日本エヌ・ユー・エス株式会社、幹事)
飯本　武志　(東京大学)
武田　聖司　(日本原子力研究開発機構)
中居　邦浩　(日揮株式会社)
中林　亮　　(電力中央研究所)

オブザーバー:

内田　滋夫　(量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所)
田上　恵子　(量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所)
孫　　思依　(東京大学)
平山　誠　　(日本エヌ・ユー・エス株式会社)
齋藤　龍郎　(日本原子力研究開発機構)
塚田　祥文　(福島大学)
西村　健　　(株式会社原子力エンジニアリング)
田中　伸祐　(株式会社原子力エンジニアリング)
瀬川　嘉之　(高木学校)

4.　議　題：

①　第 3 回研究会議事録の確認
②　今年度の活動について
③　本研究会での最終目標及び今後のスケジュールについて

5.　配布資料：

資料 1．議事次第
資料 2．第 3 回研究会議事録
資料 3．日本保健物理学会放射性廃棄物処分に関わる生活圏被ばく評価に用いられるパラメータ調査専門研究会報告書目次案
資料 4．京都大学複合原子力科学研究所「放射性廃棄物処分に係わる生活圏被ばく評価パラメータ」専門研究会プログラム案

資料 5. 今後のスケジュール案

6. 議事内容：

① 資料 2 に基づき、前回議事録の確認を行った。

② 高橋主査から、資料 3 に基づき専門研究会報告書の目次案・作業分担、続けて資料 4 に基づき京都大学複合原子力科学研究所の専門研究会プログラム案・発表内容に関して説明を行った。議論した内容は以下の通り。

- 専門研究会報告書の目次案、作業分担に関しては、メンバーの異論なし。
  - ✧ 報告書の枚数は指定されていないが、100 ページ程度と見込まれ、アーカイブ的に学会で保管することになる。報告書は学会でオーソライズするものではなく、著作権も学会側にない。
  - ✧ その他に、学会誌での解説記事（査読あり）を書く予定である。
- 京都大学複合原子力科学研究所の専門研究会のプログラム案、発表内容に関しては、メンバーの異論なし。
  - ✧ 本年の 12 月を想定している（日程詳細未定）。ウェブ会議の形で開催される見込み。報告書は、国内会議・査読無・プロシーディングの扱いとなり、出版される。

また、本件に関連し、以下の議論が行われた。

- 今年度は生活圏被ばく評価に用いられたパラメータの最新データとの比較検討が主になるが、データを示して、議論を行う時間は短い。報告書に記載できるか？
  - ✧ 本専門研究会の作業、議論に関しては 3 月いっぱいのスケジュール感で進めていくこととする。ただし、コロナの影響で専門研究会の活動が延長されるということもあり得る。
  - ✧ 報告書に関しては、年度内に必ず提出する必要はない。2 年間の活動報告なので、多少遅れが生じても問題ない（終了後、最大 1 年以内）。時期については企画委員会に相談すること。
- 対象元素の中でデータの差異が大きい元素の要因分析等に関しては、今年度議論を行うのか。
  - ✧ スケジュール的に要因分析までは難しい。次回の専門研究会で、データを並べて議論を行い、今後の検討方針について議論を行う。その結果として、次期に要因分析などの専門研究会を立ち上げるということもあり得るのではないか。
  - ✧ 昨年度からの本研究会の目的は、使用されているパラメータの現状・状態を把握するためであり、今後、どのように議論を進めるかを今年度のまとめとしていくべき。

- 昨年度の追跡調査において、最終的に特定の文献に集約されていくとの議論や、パラメータ設定におけるサイト条件等に関して、どのように考えていくか。
  - ✧ 現時点の追跡調査では、サイトを限定しないジェネリックなデータを調査している。サイト依存性や変動要因分析に関しては、本研究会の報告書のまとめにおいて、今後の方針として議論できたらと考えている。
  - ✧ 土壌や元素、農作物の種類によっても変化するので、ジェネリックとサイトスペシフィックの考え方も含めて、今後議論できたら良いのではないか。
  - ✧ 現在実施している諸外国の調査で、ジェネリックかサイトスペシフィックかに関して、それぞれの国の考え方がある程度まとめられるのではないか。その結果を踏まえて議論してみてはいいのではないか。
- 短期間と長期間の評価に関して、短期間ならトレーサ実験、長期間なら安定元素のデータを使用している。このデータの考え方をどのようにするか。
  - ➢ 短期間と長期間の差異も含め、データに変動幅があることは避けられない。これらについても、要因分析の観点で今後議論することになるのではないか。
- これまでに集めた文献の扱いについて今後どうしていくべきか。何かいいアイデアがあれば情報を共有したい。

③ 今後の予定

- 次回会合は、10 月を予定し、最新データの収集、報告書の骨子に関して議論を行う。後日、幹事より日程調整の連絡をする。

以上